

平成29年度 青少年の体験活動推進企業表彰



体験活動で伸ばす、 社会を生き抜く力

青少年の体験活動の充実に向けた
企業の取組



文部科学省

受賞企業一覧

文部科学大臣賞

[大企業部門]

伊藤忠食品株式会社

●「商業高校フードグランプリ」で食に関わる人材の育成・食育

[中小企業部門]

株式会社栄水化学

●心を磨く習慣教育「エコピカはかせのおそうじ塾」
～子ども達が明るく育ち、地域がHAPPYになれる環境づくり～

審査委員会特別賞

[大企業部門]

株式会社テレビ東京

●新本場で復活！本物を体験！進化し続ける「テレビ東京の校外学習」

敷島製パン株式会社

●自給率200%プロジェクト「ゆめちから」栽培研究プログラム

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

●「防災ジャパンプロジェクト」～防災人形劇&体験型防災ワークショップ～

三井物産株式会社

●三井物産「サス学」アカデミー

[中小企業部門]

スポーツメディア株式会社

●次世代育成プログラム「森の探検隊」

有限会社マルニ商店

●未来の「環境仕事人」養成プロジェクト ～キャリア教育からのアプローチ～

審査委員会奨励賞

[大企業部門]

アサヒ飲料株式会社

●乳酸菌をテーマにした小学生向け出前授業：
『「カルピス」こども乳酸菌研究所』

いばらきコープ生活協同組合

●「学校教育に役立つ学習ガイド」
～職場見学・仕事体験、食育・減災・環境教室講師派遣～

キリン株式会社

●キリン・スクール・チャレンジ

KDDI株式会社 株式会社ispace

●「au×HAKUTO MOON CHALLENGE」コラボ企画
私だけのプラネタリウム作り！

宝酒造株式会社

●宝酒造田んぼの学校

東洋ガラス株式会社

●なにからできている？みて、さわって、感じよう3R
「環境学習入門講座：光かがやくランタンを作ろう！」

東洋水産株式会社

●フリーズドライスープをテーマにした
継続的な食育活動

日本電気株式会社

●NEC田んぼ作りプロジェクト

日本生命保険相互会社

●中学生・高校生向け「出前授業」受入授業

東日本電信電話株式会社

●NTTインターコミュニケーション・センター
[ICC]における教育普及活動「ICCキッズ・プログラム」

森永乳業株式会社

●森永リトルエンゼル育成「第2回森と食の探検隊」

森ビル株式会社

●ヒルズ街育プロジェクト

[中小企業部門]

石井造園株式会社

●はまっ子未来カンパニープロジェクト

石坂産業株式会社

●三芳町(和太鼓)×エクアドル(伝統演劇)
文化交流事業

株式会社琉球新報社

●新報サイエンスクラブ

平成30年3月

担当：文部科学省生涯学習政策局青少年教育課

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3-2-2 TEL:03-5253-4111(代表) <http://www.mext.go.jp>

職業
仕事

「商業高校フードグランプリ」で食に関わる人材の育成・食育

伊藤忠食品株式会社 <https://www.itochu-shokuhin.com/csr/school.html>

- 【事業概要】** 食品卸売業である伊藤忠食品が、「商品開発」をカリキュラムとする商業高校(商業科目を有する高校)を対象に、地域の食材を使用して企業と開発した商品を募集しNo.1を決定する大会を主催(平成25年度より継続して実施)。
- 【対象者】** 全国の商業高校(商業科目を有している高校)約1,400校
- 【実施日程】** 平成28年7月27日(水)～28日(木) ※26日(火)に事前オリエンテーションも実施
- 【参加者】** 全国から予選を通過した代表校10校、特別出展校1校

商業高校の「商品開発」は、平成22年度から学習指導要領に新たに導入された科目だが、商品化に至るまでには、食品表示の法令遵守や、商品コンセプトの設定など、さまざまな課題がある。そこで当社では、本グランプリへの商品エントリーを通じて、「継続的に流通・販売可能な商品」開発のために必要な知識を習得してもらおうと、平成25年度より本事業を開催してきた。さらに、「ビジネスの実態に即した商品」を生み出すことで、メーカーによる継続的な支援に寄与することや、「地域の食材を使った商品」を全国に広げることによる地域食文化継承もねらいとしている。

具体的には、まず全国の商業高校に開催を案内し、27校からのエントリー商品(41品)の予選審査を行った。そこで選出された代表校10校と特別出展校には、インテックス大阪(大阪国際見本市会場)で開催された「伊藤忠食品夏季展示会 FOODWAVE 2016」に出展参加してもらい、自分たちが開発した商品を、接客・試食提供することで、来場した

“流通のプロ”たちにアピールしてもらった。そして、最終日には、審査員の前で商品説明・販売戦略のプレゼンテーションを行って大賞を決定した。

当社ならではの取組としては、予選審査でのフィードバックを全エントリー商品に対して実施しており、これは高校生たちの今後の商品開発に生かしてもらうことをねらいとしている。実際にフィードバックを参考に再エントリーした結果、本選出場、地域での商品拡売につながった学校もある。また、本選前のオリエンテーションとして、当社品質保証部による「食品表示基礎講座」を行った。これは、学校教育の中では中々カバーできない内容として、教員からも大変好評を得た。そして、本選で普段とは異なる環境でさまざまな方に商品をアピールした経験は、高校生にとって貴重な“実践的な教育の場”であり、まさに“食に関わる人材育成”に直接つながる成果をあげている。



内容・進行

開催にあたっては、毎年、①開催場所 ②出場校・出場校数 ③学習機会の提供 ④募集内容のテーマ設定について見直し、改善を加えて実施している。平成28年度は、開催地である関西の商業大学の協力を得て、予選前の事前審査を行った。全エントリー商品にフィードバックを行ったので、今後の商品開発のために参考になると喜ばれた。

また、商業高校の科目「商品開発」が目的とするところの、“商品の企画・開発だけではなく流通・販売に必要な知識や技術の実践的な習得”が実現できるよう、食品卸売業である当社の強みを最大限に活用する内容となっている。

例えば、当社品質保証部によるエントリー商品の食品表示の確認や、食品表示についての基本講座の開催に加えて、商品が店頭で並ぶまでの流れを理解してもらうため、当社物流センターの見学会などを実施している。

さらに、大賞校には副賞として、商品開発のためのアイデア出しのサポート、SNSなどのメディアを使ったブランディング、マーケティングなどの授業を提供。また、実際に小売業から出場校の商品取扱いの要望があった場合には、具体的な商品提案、売場展開のサポートも行っている。

情報発信の努力

全国で商業高校に開催を案内するほか、教員対象の研修などでも講演を行い、取組への理解醸成に努めている。本選出場校については、この活動が取り上げられることで地域がより活性化されるべく、地元メディアにアプローチ。将来的に地域の食を担う人材の育成を見据えている。

社内理解の醸成

すべての活動において、社員と高校生が交流できる場を設けており、その取組は社内報やCSR報告書などで周知している。また最近では、この活動はCSRにとどまらず、“食に関わる若い人材の育成”というCSV(共有価値の創造)として、本業のビジネスとも結びついている。平成28年度から当社として22年ぶりに高卒者の採用も再開。平成30年度に、当グランプリに出場した高校生の入社が決まっており、社内のさらなる理解促進につながると考えている。

生活文化 心を磨く習慣教育「エコピカはかせのおそうじ塾」 ～子ども達が明るく育ち、地域がHAPPYになれる環境づくり～

株式会社栄水化学 <http://www.eisui.co.jp/eco/>

【事業概要】 産官学連携で、子供たちの心を育む習慣教育プロジェクト。「おそうじ」を通して、楽しく学びながら、自発性や協調性、計画を立てて実行する力など、子供の成長過程に大切な要素(EQ)を育み、自立した子供を育てる。

【対象者】 尼崎市内および近隣地域の幼稚園や保育所、小学校に通う、3～12歳の子供たち
【実施日程】 平成28年8月～平成29年1月の間に、計8回実施 ※平成25年度から計31回実施
【参加者】 尼崎市立成文小学校1年生(37名)
尼崎市内小学校・幼稚園・保育所等(370名)

昔は当たり前のように行われていた家庭や地域間での教育(しつけ)は、共働き世帯の増加による子供との接触時間の減少、人口減少や高齢化などによる地域間のつながりの希薄化によって衰退してきている。

そこで、当社の本業である「おそうじ」を始め、心を育むための要素を取り入れた「エコピカはかせのおそうじ塾」を通じて、子供たちに学問的な学びでは得られない心の教育を行って、「自立し、豊かな心を持った子供」を1人でも多く育てたい。これが本事業の目的である。

また、子供たちの「生きる力」を養う土壌となる教育環境や学びの場を提供することは、未来へと続く、明るく元気なまち(社会)作りにもつながっていくものと考えている。

実際には、当社代表が「エコピカはかせ」となって、子供たちのもとを訪問し、楽しみながら学べる体験型授業を行っている。例えば、「汚れの仕組みとシミ取りを学ぼう」「楽しみ

ながらお片付けの習慣を身につけよう」、工作遊びを通して自発性を育てる「わくわく入浴剤作り」「環境に優しいエコグッズづくり」など。いずれも、単なる工作ではなく、どう役立つのか? どんな原理でそうなるのか? を実感できる“体験”を重視した内容である。さらに、家に帰ってのお手伝いにもでつながる仕組みを導入している。「エコピカはかせ」というキャラクター設定は、子供たちが関心を持って楽しく取り組んでもらえるようにと、当社従業員のアイデアから生まれた。これらの成果として、保護者から「子供がおそうじって楽しい!」と言った、「お手伝いを進んでしてくれるようになった」などの声が届いており、連続での授業依頼も増加している。

当社では、「おそうじ」には、「汚れたところを綺麗にするだけでなく、目に見えない心の教育という効果(価値)がある」ことを社員教育のうえでも大切にしているが、それが、多様な子供たちの成長過程にも生かしていると考えている。



内容・進行

「エコピカはかせのおそうじ塾」は、対象が幼児～小学生なので、工作などで必要な材料は、すべて口に入れても安全なもの(重曹、クエン酸、食紅、食用油など)を使用している。

授業の内容は一律ではなく、学校や家庭のニーズに沿った授業内容を提供するため、何度も足を運びヒアリングや打ち合わせを行い、依頼者である保護者や教員の方たちの悩みや要望を聞いたうえで、共に解決していく内容を企画。その都度のオリジナル授業を組み立て、実施している。これがリピーター増加につながっている(幼稚園2件、小学校1件)。

企画運営から本番、そして事後サポートまで、常にPDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)で取り組んでいる。授業後には、子供の理解を深めるための「おさらいシート」、習慣を図るための仕組みとして「スタンプカード」、保護者や教員からの要望を盛り込んだ「提案書」、意見を次に生かすための「事後アンケート」などを実施し、改善に努めている。

情報発信の努力

当社代表自らが、尼崎市商工会議所青年部部長を務め、尼崎市や商工会議所、その他地域の企業や団体などに向けて、本事業を発信。地域と連携し、関係を築いていく中で、若者の育成を本気で考える大人が集まりつつある。学問的な勉強のみならず、次世代を担う子供たちの心を育むためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、その特色を生かし、支え合って連携していくことが必須だと考える。

社内理解の醸成

社内スタッフ全体で本事業に取り組んでいるが、中心は、若手スタッフとインターンシップ生。実際に子育て中のママさんスタッフからの意見やアイデアを取り入れるなど、部署、年齢関係なく、「みんなで」という意識が根付いている。また、本社以外に所属するスタッフなどには、月1回発行の社内報「エコピカ新聞」を発信。「いつ、どこで、どのようなことを、どのような想いで取り組んでいるか」を共有することで、社内外全体に理解を深めている。

審査委員会特別賞 [大企業部門]

職業
仕事

新本社で復活!本物を体験! 進化し続ける「テレビ東京の校外学習」



株式会社テレビ東京 <http://www.tv-tokyo.co.jp/csr/>

【事業概要】 作り物の「見学者用コース」ではなく、「ありのままの職場」を体験してもらうことに力点をかけた校外学習を平成23年度下期から実施。平成28度は本社移転のためテレビ番組の制作を体験してもらう出前授業を軸に展開をした。

【対象者】 小学校5年生～高校3年生

【実施日程】 出前授業を中心に年間5回

【参加者】 5校(計131人)

子供たちに「どのようにしてテレビが作られているのか?」「テレビの裏側でどんな努力がされているのか?」などを、体験を通じて学んでもらう校外学習を毎年実施。今年度は、本社移転中のため、本社での“受け入れ型授業”は原則休止とし、当社が学校へ出向く“出前授業”を中心に活動を行った。テレビ東京の看板番組「世界卓球」の中継に携わった社員と一緒に、子供たちの卓球を“実況中継”するなどして、子供たちの満足度もさらに上がった。

授業のメニューは学校の要望に応じて毎回カスタマイズする

が、アナウンサー体験やカメラマン体験、スポーツ中継の体験など体験型の授業を前面に押し出している。当社の人材、設備、番組コンテンツ、技術など、子供たちの学習に役立つものはすべて利用し、子供たちの将来の夢にまでつながる“体験”を提供。大変な好評を得ている。来年度は新本社で“受け入れ型授業”をさらに進化させて再開し、継続していく。



自然
環境

自給率200%プロジェクト 「ゆめちから」栽培研究プログラム



敷島製パン株式会社 <http://www.yumechikara.com/>

【事業概要】 全国の中高校生と国産小麦品種「ゆめちから」の栽培研究に取組、日本の食料自給率向上を担う未来の人材を育成する。パン作りに最適な小麦の栽培方法を研究するとともに、パン作り教室や工場見学、ワークショップなども実施。

【対象者】 中学生・高校生(主に部活動単位で取組む)

【実施日程】 平成28年9月～平成29年9月

【参加者】 課題研究校3校、全国の自由研究校22校

本プロジェクトのねらいは、国産小麦品種「ゆめちから」の栽培研究やパン作り教室への挑戦を通じて、“自分と、自分以外のもうひとり”の食べ物を作ることを経験し、食の生産に対する意識を高め、人とのつながりの中で生きる自分を発見する機会を提供すること。課題研究校では、規定の条件下での栽培研究のほか、パン作り実践教室、播種教室、工場見学と食料自給率を考えるワークショップ、研究発表会などを実施。一方、自由研究校では、各校自由な発想での研究結果をブログで報告

した。ほかに、「ゆめちから」開発者による講演、専門知識を持つスタッフによるサポートなども積極的に行っている。

これまで6回実施し参加校は延べ174校に達し、これまでのプロジェクト参加者の中から農学部に進学する生徒が出たり、3年以上継続研究する学校があったり、学校教育現場への浸透とキャリア形成においての効果を実感している。



生活
文化

「防災ジャパンダプロジェクト」 ～防災人形劇&体験型防災ワークショップ～



損害保険ジャパン日本興亜株式会社 <http://www.sjnk.co.jp/csr/environment/eco/bousai/> 損保ジャパン日本興亜

【事業概要】 将来を担う子供たちとその保護者を対象に、災害から自分自身・周囲の人を守るための知識や安全な行動を身に付けてもらうことを目的として、防災教育プログラムを全国各地で実施している。

【対象者】 未就学児、小学生(親子参加)

【実施日程】 平成28年4月～平成29年3月(51回)

【参加者】 9,153人

親子で災害から自分自身・周囲の人を守るための知識や行動を身につけてもらうため、楽しみながら防災について学べる人形劇やワークショップを行っている。

大きく分けて二部構成となっており、第一部では、プロの人形劇団による防災人形劇「さんびきのこぶた危機一髪」を上演している。オオカミが引き起こす様々な災害を、こぶたたちが協力して乗り切っていくストーリーで、“慌てないで行動することの大切さ”を伝えている。第二部は、「ジャッキアップゲーム」

「毛布で担架タイムトライアル」「防災カードゲーム」などの体験型防災ワークショップを実施しており、ゲームを通して防災時の正しい行動についての知識を学べる内容となっている。子供と一緒に参加する保護者からも、「親子で楽しみながら防災意識を深めることができました。」等の感想をいただいている。



職業
仕事

三井物産「サス学」アカデミー



三井物産株式会社 <http://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/education/sasugaku/index.html>

【事業概要】 2050年の未来都市が抱える様々な課題を子供たちが自分事として捉え、彼らの柔軟な発想で解決方法を企画・提案するワークショップ。「学び」「考え」「みんなに伝える」を通じ、子供たちの「未来につながる社会を創り出す力」を磨く。

【対象者】 小学4～6年生

【実施日程】 平成28年7月22～30日のうち5日間

【参加者】 30人

「サス学」とは、サステナビリティ(持続可能性)学習のこと。子供たちが、正解のない問題に対して、主体的に立ち向かう力を養うための、学びの場・機会としてのワークショップを行っている。夏休み中の5日間を利用したプログラムで、今回のテーマ「2050年の『暮らし』や『しごと』を創り出そう」に即した当事業を教材に、関連事項を学び、課題解決のためのアイデアをグループメンバーで考え、発表する。例えば、2050年の地方都市に住んでいる設定で、当社が手がける「ロボット事

業」について学び、「未来のソーシャルロボット」について発表。さらに都市のPRのための新聞とCMを制作・発表した。「“サス学”羅針盤」を用いて、アイデアを多面的に広げ、かつ繋げる思考訓練を実践しており、子供たちにも好評。保護者からも「自分にしかない発想を養える活動」「社会の出来事に関心を持つようになった」などと高評価を得ている。



審査委員会特別賞 [中小企業部門]

自然環境 次世代育成プログラム「森の探検隊」

スポーツメディア株式会社 <http://www.sportsmedia.jp/company/>

【事業概要】 幼稚園年長と小学2年生を対象とした野外教育事業。自然豊かな里山での体験活動や自然散策と、そこで見た感じたりしたことを様々な素材で「創作表現」することで、感性や主体性を育む「次世代育成プログラム」。

【対象者】 幼稚園年長、小学2年生

【実施日程】 夏(8月)、秋(9月)、冬(11月)に各1回

【参加者】 幼稚園年長8人、小学2年生8人(3回とも同じメンバー)

食材を使った昼食を食べ、季節に応じた創作活動を実施した。創作活動では、子供たちの自由な発想で、好きな人工素材(クレヨン、色紙、毛糸など)と拾ってきた自然の素材(葉っぱ、花、木の実など)を自由に選んで、子供たちが感じた「季節」をチームごとに表現・発表。うまい・下手ではなく、自他を共に認め合う心を育む活動内容とした。



自然の中での豊かな遊びを通して、友達と活動する喜び、友達を知り、自分を知る喜び、自分が感じたことや考えを表現する喜びから、他者との関係性、自己肯定感、主体性を育むことを目的に企画したもの。夏・秋・冬と、違う季節に同じ場所(広島県安芸太田町井仁棚田交流館とその周辺の森)を訪れ、季節の変化を五感を使って全身で感じる活動を行った。3回とも同じメンバーで、チームを作り、夏は夏野菜収穫体験、秋は稲刈り体験、冬はたき火体験などを実施。さらに自然散策、季節の旬の

職業仕事 未来の「環境仕事人」養成プロジェクト ソーシャルリサイクリングカンパニーを目指して 有限会社マルニ商店

有限会社マルニ商店 <http://www.marunishoten.co.jp>

【事業概要】 小学生を対象に学年に応じた環境教育プログラムを提案、学校と連携し実施している。小学校の低学年では「環境への気づき」、中学年では「まち、身近な環境活動への理解」、高学年では「職業への実践」へとスケールアップする。

【対象者】 小学1～6年生

【実施日程】 平成28年4月～平成29年3月

【参加者】 約300人(当社近隣の横浜市立浅間台小学校)

がどのようにリサイクルされているかを伝える出前授業(4年生)、当社の本業であるガラスびんのリサイクル作業を実際に経験し、現場の大変さを知るとともに、「仕事」や「社会人のあり方」への理解を深める仕事体験(5・6年生)を行っている。子供たちの環境意識の育成とともに、地域との交流という意味でも、有意義な活動成果を生んでいる。



各家庭から生まれる資源物が、どのように資源化(リサイクル)されているかを知り、その工程において自分がどんなリサイクル活動を実践できるのか、学年に応じた学ぶ機会を提供。また、職業体験での流れ作業では、業務の基本である「PDCA」が自然に身に付くように指導することで、「環境」というキーワード以上の学習効果を生むこともねらいとしている。具体的には、横浜市と民間団体が実施している環境学習プログラム「環境絵日記」への参加(小学1～6年生共通)、びん・古紙など

審査委員会奨励賞 [大企業部門]

生活文化 乳酸菌をテーマにした小学生向け出前授業：『「カルピス」こども乳酸菌研究所』

アサヒ飲料株式会社

【対象者】 小学4～6年生

【実施日程】 平成28年6月14日～12月6日(56回実施)

【参加者】 1,789人(27校)

社員が講師となり“乳酸菌と発酵”をテーマに食の大切さを伝え、ゼロから新しいものをつくりだす可能性や未来への夢を、社員と児童のディスカッションにより考える授業を実施。児童が主体的に考え、食育・理科・キャリア教育が複合的に学べるプログラムを実施している。プログラムの中では、顕微鏡での観察、味・におい・形状での比較など「五感を使った体験」ができる工夫をしている。参加者からは、「自分たちで考え、答えを探すことで理解が深まった」などの感想があった。

<http://www.calpis.info/peace/kids-labo/>



生活文化 「学校教育に役立つ学習ガイド」～職場見学・仕事体験、食育・減災・環境教室講師派遣～

いばらきコープ生活協同組合

【対象者】 幼児～大人

【実施日程】 平成28年4月～平成29年3月(64回実施)

【参加者】 2,474人(大人含む)

県内の小学校等の教育機関向けに食育教室などの案内をまとめた「学校教育に役立つ学習ガイド」を平成26年より毎年発行。学校・行政・諸団体との連携により、多様な体験活動を選択できるプログラム(職場体験・仕事体験・食育教室・減災教室・環境教室・お金の使い方教室・キッズマルシェ)を提供している。体験を通して、子どもたちの生活意欲・学習意欲・知的好奇心を引き出す学習を推進している。

<http://ibaraki.coopnet.or.jp/>



自然環境 キリン・スクール・チャレンジ

キリン株式会社

【対象者】 中学生、高校生

【実施日程】 平成28年4月～平成29年3月

【参加者】 182人

「キリン・スクール・チャレンジ」は、「豊かな地球のめぐみを将来につないでいく」ために、中高生が主役となって、「自分たちに何が出来るか」を議論し、動画や資料を作成、同世代に伝えていくプロジェクト。議論のテーマとして、①レインフォレスト・アライアンス認証、②FSC®認証、③容器包装リサイクルの3つを掲げ、NGOの協力を得ながら行っている。

<http://www.kirin.co.jp/csv/eco/schoolchallenge/>



職業仕事 「au × HAKUTO MOON CHALLENGE コラボ企画 私だけのプラネタリウム作り！」

KDDI株式会社 / 株式会社ispace

【対象者】 中学生、高校生

【実施日程】 平成28年8月6日

【参加者】 17人

女性の活躍が少ない理工系分野に多くの生徒が関心を持つことを目的に、「見る」「作る」「聞く・話す」の3つの体験の場を提供するプログラム。「見る体験」では興味深い理工系の取組をしている「Maker Faire Tokyo 2016見学ツアー」。「作る体験」ではIoT(モノのインターネット)の基礎を学びつつ、自分だけの「星座早見スコープ(プラネタリウム)」作り、「聞く・話す体験」では理工系分野で活躍している女性社会人によるパネルディスカッションおよび質疑応答を行った。<http://news.kddi.com/kddi/corporate/csr-topic/2016/08/16/1976.html>



審査委員会奨励賞 [大企業部門]

自然環境 宝酒造田んぼの学校

宝酒造株式会社

- 【対象者】小学生
- 【実施日程】平成28年5月、6月、10月、12月(4回実施)
- 【参加者】80人(家族を含む)

田んぼの学校は、次世代を担う子供たちに自然環境を守ることの大切さ(環境教育)や自然の恵みの有難さ(食育)、日本古来の伝統的な生活文化(社会文化教育)を伝えることを目的に開校している。子供たちに、社会で生きて行くために大切なこと(広い視野・多面的・多角的なものの見方・世代の異なる人たちのコミュニケーション)などを伝えている。5月、6月、10月に自然観察と稲作体験(田植え、草取り、稲刈、脱穀体験)を、12月に収穫したお米や稲わらを使った親子料理教室や正月のしめ飾り作りなどを行った。

<http://www.takarashuzo.co.jp/environment/komesake/index.htm>

宝酒造



自然環境 なにからできている?みて、さわって、感じよう3R「環境学習入門講座:光かがやくランタンを作ろう!」

東洋ガラス株式会社

- 【対象者】未就学児、小学生
- 【実施日程】平成28年7月26日、8月4日
- 【参加者】7月26日:未就学児3人・小学生25人、8月4日:小学生25人

『材料・素材』という概念を学び、知識としての3R(リデュース・リユース・リサイクル)に加え、体験学習を通して実際に触れ、3Rを体感し、自らが3R行動を起こすことを目指している。さらには、各家庭での環境配慮行動の起点となることも目指す。講座内容は、教室や家、

街にある身近なガラス素材を知り、またガラスびんの破片(カレット)を使って、ランタンを作ることでもノを大切にすることを学び、簡単に捨てるのではなく、再利用(リサイクル)を体感するというもの。

http://www.toyo-glass.co.jp/environment/case_study.html

東洋ガラス株式会社



生活文化 フリーズドライスープをテーマにした継続的な食育活動

東洋水産株式会社

- 【対象者】小学生、高校生
- 【実施日程】小学生向け:平成28年12月2日・12月6日
高校生向け:6月1日~11月20日
- 【参加者】小学生向け:八戸市内の小学校2校、
高校生向け:東北地方の高校(約100人)

フリーズドライスープをテーマに、小学生向けの出張授業(「マルちゃん」のフリーズドライ出張授業)と高校生向けの商品アイデアコンテスト(「スマイル“フード”プロジェクトin東北」)を、製造工場がある東北地方で展開。小学校での理科の授業を交えたフリーズドライの

仕組みについての学びを生かし、高校生は地域食材や郷土料理を取り入れたオリジナルスープとしてレシピに落とし込む継続的なプログラムで、段階的な学びによる知識の定着と能動的な学習に貢献。

<http://www.maruchan.co.jp/csr/society/fundraising/index.html>

東洋水産



自然環境 NEC田んぼ作りプロジェクト

日本電気株式会社

- 【対象者】幼児~
- 【実施日程】平成28年5月~平成29年3月(7回実施)
- 【参加者】800人

認定NPO法人アサザ基金、合資会社廣瀬商店(旧白菊酒造)、茨城県牛久市と協働で、環境意識の向上や生物多様性の保全を目的に、稲作から酒造までを体験できる生物多様性保全活動を毎年実施している。平成28年度は、5月に田植え、7月に草取り、9月に稲刈り、10月に脱穀、1月に酒仕込み神事、2月に復田・味噌造り、3月に新酒蔵出しなどを行った。

<http://jpn.nec.com/community/ja/environment/tanbo.html>

NEC



職業仕事 中学生・高校生向け「出前授業」「受入授業」

日本生命保険相互会社

- 【対象者】中学生、高校生
- 【実施日程】平成28年4月~平成29年3月
- 【参加者】13,954人(全国の中学校・高等学校135校)

当社の従業員が講師となり、「出前授業」「受入授業」を全国で展開。「出前授業」では、従業員が学校を訪問し、ライフイベントや万一の備え、将来設計等をテーマに授業を実施。「受入授業」では生徒が来社し、授業に加え、職業見学や先輩社会人との座談会を実施。社会環境の変化や必要資金の視点からライフイベントを解説することで、生徒が主体的にライフデザインを考え、就業や社会参加の重要性を学びきっかけとすることを目的としている。

<http://www.nissay.co.jp/kaisha/csr/details/chiiki/shakai/>

日本生命



科学技術 NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]における教育普及活動「ICCキッズ・プログラム」

東日本電信電話株式会社

- 【対象者】未就学児、小学生、中学生、高校生
- 【実施日程】平成28年7月16日~8月31日(全21回)
- 【参加者】計176名(※ワークショップ参加者)

小中学生を対象に、現代のメディア環境や最新のメディア・アートに触れる機会や参加型のワークショップ等を平成18年から実施。子供たちの好奇心や想像力を育み、新たな創造に繋げることを目指して、11年間で延べ、約15万人が体験している教育・文化振興活動である。平成28年度のテーマは「気づきフィルター メディア・アートの要素を探してみよう」。

<http://www.ntticc.or.jp/ja/exhibitions/2016/icc-kids-program-2016-media-art-as-an-awareness-filter/>

NTT東日本



自然環境 森永リトルエンゼル育成「第2回森と食の探検隊」

森永乳業株式会社

- 【対象者】小学4~6年生
- 【実施日程】平成28年7月25日~7月29日
- 【参加者】29人

「大自然の中での直接体験を通して、生きる上で大切なものを自ら発見する」をテーマに、森の中でのキャンプ場をベースに、子供たちだけで共同生活をしながら、野外体験、農業体験、酪農体験、乳業工場見学などを行い、「生きる力」を育成することを目的とする。また、東京学芸大学との産学共同研究対象として、評価のみならず、子供の野外教育の学術的研究や指導員の養成も行っている。

<http://www.morinaga.com/nasu/>

森永乳業



生活文化 ヒルズ街育プロジェクト

森ビル株式会社

- 【対象者】小学3~6年生、保護者
- 【実施日程】平成28年度(50回実施)
- 【参加者】1,524人(保護者含む)

街づくりのノウハウや街の魅力を、未来を担う子供たちに伝えるとともに楽しく学びながら、次世代の都市のあり方を考える機会として実施している「体験学習プログラム」。六本木ヒルズ、アークヒルズ等の当社が開発・運営を行う“街”を舞台に、当社が街づくりで大切にしている「安全・安心」「環境・緑」「文化・芸術」をテーマとした多様な体験型プログラムを実施し、未来を担う子供たちに“街”及び“街づくり”に興味・関心を持ってもらうことで、彼らの無限大の可能性を拓きながら、彼らと共に未来都市を創っていくことを目的としている。

<https://www.mori.co.jp/machiiku/>

MORI



審査委員会奨励賞 [中小企業部門]

自然環境 はまっ子未来カンパニープロジェクト

石井造園株式会社

【対象者】小学生、地域の方々
【実施日程】平成28年7月～平成29年3月(2回実施)
【参加者】①笠間小学校の生徒35人と連合町内会 ②本郷小学校の生徒70人と連合町内会、おやじの会

総合学習の時間の中で、子供たちの自分づくり教育を推進している。今受けている授業が、社会のどこにつながっているのかを実体験をもとに学習するプロジェクト。具体的には、「ピタゴラ6-2大ぼうけん! トリプルスイッチON!」「トンボ池再生プロジェクト」を2校で実施。それぞれ地域社会にどう貢献できるかを考え、授業の意義を明確にさせた。また、地域社会に協力してもらい、より多くの大人が授業に参画するように促した。



生活文化 三芳町(和太鼓) × エクアドル(伝統演劇) 文化交流事業

石坂産業株式会社

【対象者】幼児～、地域・海外の方
【実施日程】平成28年8月6日、8月9日
【参加者】三芳町および近隣に住む地域の方80人(うち子供40人)、サン・イグナシオ・デ・ロヨラ児童演劇クラブの方15人

埼玉県三芳町の伝統文化の和太鼓を習っている地域の子供たちと、エクアドル国のエクアドルサン・イグナシオ・デ・ロヨラ児童演劇クラブの子供たちとの文化交流を支援。互いの演劇・和太鼓の演奏披露や鑑賞、さらに、両国の子供たちが一緒に和太鼓を叩き、森の中で遊びながら文化交流を図った。



<https://ishizaka-group.co.jp/our-action/join-us/491/>

自然環境 新報サイエンスクラブ

株式会社琉球新報社

【対象者】小学生、中学生
【実施日程】平成28年4月～平成29年3月
【参加者】計45人

沖縄県内の小中学生を対象に自然や動植物の研究を支援する事業。調査研究費の助成や研究のサポート、研究成果発表会などを行い、子供たちの「科学の芽」を育むことを目的として実施している。自由な発想で、のびのびと研究に取り組めるよう、優劣は付けないことを第一とし、子供たちが研究に立ち止まったり悩んだりした場合に手助けをするため、個別相談としてのフォローアップ(助言)制度を設けているのも特色である。



<http://science.ryukyushimpo.jp/>



広がる企業の体験活動

職業仕事 「しごと体験教室」

医療法人財団明理会
新松戸中央総合病院



中学生を対象に、看護師や診療放射線技師、臨床検査技師など病院内で働く医療従事者の仕事を体験するプログラム。手術室の見学や、画像診断機器の操作体験などを通して病院内の様子を知ってもらい、病院で働くことに対する興味を深めてもらう。
<http://www.ims.gr.jp/shinmatsudo/hospital/media.html>

職業仕事 大学生への金融リテラシー普及プロジェクト「UNISA(ユニーサ)」

SMBC日興証券株式会社



大学生にとって必要な金融リテラシーを大学生自ら企画・立案・発信するプロジェクト。大学生の金融リテラシーの実態を把握するためのアンケートやディスカッション、外国人留学生との座談会、大学生のためのお金の教科書の発行などを実施。
<https://www.smbcnikko.co.jp/csr/education/literacy/index.html>

職業仕事 ～ART de GENK!～「親子でスタジオ見学&ペットボトル万華鏡工作」プロジェクト(Vol.2)

株式会社日本テレビアート



職場に親子を招き、当社の業務を紹介しながら、業務上不要となった素材の照明カラーフィルムや、ペットボトルなどを活用し、当社社員と一緒に「ペットボトル万華鏡工作」を行う。

<http://www.ntvart.co.jp/csr/activity/index23.html>

職業仕事 特別支援学校の生徒を対象とした『金融教室』 「社会人になれる皆様へ 始めてかんたん、銀行の便利な利用法」等

株式会社みなと銀行

本店及び、特別支援学校の近隣支店から行員(10名程度)が対象校を訪問し、卒業後の社会人生活で必要となる金融知識を伝える。「銀行口座の開設」や「クレジットカードの正しい利用法」等の体験学習を行う。

<http://www.minatobk.co.jp/>

職業仕事 フューチャー イノベーション フォーラム (FIF)

フューチャー株式会社



様々な企業が連携して社会貢献活動を行う会員組織「FIF」を立ち上げ、次世代リーダーの交流・相互研鑽を目的とした活動と、キャリア教育を目的とした子供向けの活動を企画・運営している。

http://www.future.co.jp/about_us/csr/

職業仕事 実体験型社会学習プログラム 「日興『家族でワクワク体験DAY』」

SMBC日興証券株式会社



小学生とその家族が当社の本支店を訪れ、お金に関するクイズや情報端末などを使った実体験や、名刺交換会、社員による講義などを通じて、経済やお金の流れ、金融機関の社会的役割などを楽しみながら学ぶプログラム。
<https://www.smbcnikko.co.jp/csr/education/wakwak/index.html>

職業仕事 夏休みまるごとアカデミー2016 ～ぼくとわたしのおしごと体験・おもいで作り～

遠州鉄道株式会社



遠鉄グループが事業展開する鉄道やバス、百貨店、スーパー、ホテル、遊園地などの多種多様な仕事を子供に体験してもらう。平成27年より毎年、同グループ各社事業所・協力施設にて実施している。
<https://cards.entetsu.co.jp/kidsclub/>

職業仕事 「児童養護施設」の子どもたちの職業体験

株式会社ファンケル



平成27年から毎年、春休み・夏休みに「児童養護施設」で暮らす子供たちの職業体験を実施。本社1階「ファンケル関内店」にて、店舗スタッフと同じ制服を着用し、接客接客研修受講と、洗顔パウダーの泡立てなどの実演体験を行う。
<http://www.fancl.jp/csr/>

職業仕事 ジョブシャドウイングプログラム

千代田化工建設株式会社



高校生が企業の社員に同行し、実際に仕事を体験するプログラム。業界・企業業務説明、安全教育、VR体験、ハネス着用体験、水素デモプラントの見学、Plot Plan演習、3Dモデルレビュー、パイヤー体験など様々な仕事を体験する。
<https://www.chiyodacorp.com/jp/csr/stakeholder/social-contribution/topics01/>

科学技術 クラレ「少年少女化学教室」

株式会社クラレ



子供たちに化学実験を通して、化学の楽しさを知ってもらう教育活動として、小学生を対象に開催している。生産している製品に関連した技術を用い、優しくわかり易い実験を通じて、化学を体験してもらう。

<http://www.kuraray.co.jp/csr/randoseru/>

広がる企業の体験活動

科学技術 「夏休み特別企画 扇橋閘門親子体験会」

株式会社建設技術研究所  株式会社建設技術研究所

小・中学生の親子を対象に、東京都建設局が管理する扇橋閘門の夏休み期間中の一般開放にあわせて、扇橋閘門を実際に舟に乗って体験するとともに、閘門の管理所内の操作室の見学を行い、街づくりや防災を親子で考えるきっかけとする。

http://www.ctie.co.jp/csr/chiiki/edo_tokyo_conso/oyako/

科学技術 ダンロップものづくり教室

住友ゴム工業株式会社



神戸市内などの小学校高学年生が対象。グループ毎に電池で動くおもちゃを組立説明書に基づき製作、完成したおもちゃを使って競争をしながら、ものづくりのおもしろさ・難しさなどを体験してもらう。

http://www.srigroup.co.jp/newsrelease/2017/sri/2017_142.html

科学技術 NTTドリームキッズ ～ネットタウン2016～

日本電信電話株式会社



インターネットや様々な情報通信機器を使いながら、その楽しさや便利さを体験。安心・安全に利用するためのルールやマナーなどについても学べる内容。

http://www.ntt.co.jp/kids/past_event_netstown.html

自然環境 コープのがっこう

いばらきコープ生活協同組合



組合員とその家族を対象に、自然や食・環境をテーマにした体験教室を、茨城県内の行政や諸団体と連携して毎年開催。農作物の生産や生物、環境保全について、家族で学ぶ機会となっている。

<http://ibaraki.coopnet.or.jp/>

自然環境 緑のバトン運動

株式会社朝日新聞社



全校の学校に呼びかけ、被災地産の苗木を1～2年程度学校で育て、被災地に送り、津波で失われた緑地などに植樹する。また、災害シミュレーションツールである「防災巻」を使った防災授業を実施し、その普及を図る。

<http://www.asahi.com/shimbun/company/csr/green/>

科学技術 コラーゲン、ゼラチンをもちいた 理科実験授業

株式会社ニッピ



理科の理科教育(消化の理解)および食育の観点から、コラーゲン蛋白質を用いて、生体内でのコラーゲンの役割を実物の骨や皮を用いて体験し、コラーゲンは食べられた後どのように変化して体の成分として取り込み利用されるかを実験を通じて伝える。

<http://www.nippi-inc.co.jp/biomatrix/tabid/64/Default.aspx?itemid=336>

科学技術 今日からあなたもレジ博士 ～バーコードのしくみ・レジのしくみを知る～

東芝テックソリューションサービス株式会社

レジやバーコードシステムの発展が、人々の働き方や買い物行動に貢献していることを体感する。レジの分解組み立てや操作説明など、従業員の業務経験を活かし、教える側の学びと再発見も意識しながら、特別支援学校などでも展開中。

http://www.toshibatec-ttss.co.jp/ttss/csr_community.html

自然環境 「水」をテーマにした小学生向け出張授業 『『三ツ矢サイダー』ジュニア環境授業』

アサヒ飲料株式会社

その感動を、わかちあう。

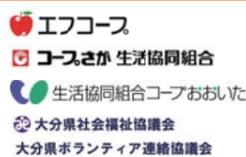


「水循環の仕組み」、「自然界でのろ過の仕組み」を子供達が理解しやすいよう模型を使って説明。またPETボトル容器の正しい分別をリサイクル体験を通して学ぶ。最後に、子供達が環境を守るための「エコ宣言」を短冊に記入する。

http://www.asahiinryo.co.jp/csv/mitsuya_school.html

自然環境 「ふくしまっ子プラスワン応援プロジェクト6 ～おもいきり、九州の夏～」

エフコープ・コープさが生協・
コープおおいた・大分県社協



東日本大震災をきっかけに、避難生活により自然と親むことが容易ではなくなった福島の子供たちを、夏休みに九州に招待し、自然体験を通して想像力やチームワークなどを養う企画。

https://kyoiku.shinchi-town.jp/?page_id=16

自然環境 えがおの森基金 「ハハトコのグリーンパワー教室」

株式会社千趣会



通信販売事業「ベルメゾン」のお客さまからの募金を原資に、小学生の親子を招待し、発電体験や座学、親子の話し合いなどを通じて発電のしくみ、再生可能エネルギーの種類、節電の大切さを学ぶ出張授業の実施。

<http://www.egaono-mori.jp/green/class/index.html>

自然環境 SGエコキッズ創設/里山プロジェクト始動 ～体験活動の機会創出～

佐川急便株式会社



佐川急便では、従業員の親子の環境学習を支援する「SGエコキッズ」の創設や社有林『高尾100年の森』で展開するコース(高校生から大学生)を対象とした「里山ワークプロジェクト」など、子供たちの豊かな心を育む体験活動の機会を創出している。

<http://www.sagawa-exp.co.jp/takao100pj/>

自然環境 千年あかり 環境教育イベント (竹灯籠作り)

サッポロビール株式会社



地域の少年団を対象に、大分県日田市「日田天領まつり・千年あかり」のイベントに参加している。その歴史や意義と里山環境保全について学び、保全活動で伐採した竹と廃油からつくったろうそくで竹灯籠を作ってもらって体験型環境教育プログラムを実施。

<http://www.sapporobeer.jp/company/maindata/index.html>

自然環境 足尾事業所、筑豊事務所における 地域貢献活動

古河機械金属株式会社



足尾事業所では日光市内の小中学校の生徒や先生に、事業所の業務内容や足尾の歴史などについて理解を深めてもらうための勉強会を定期的に開催している。また、筑豊事務所では、“ボタ山”を観光資源として生かすための活動に取り組んでいる。

<http://www.furukawakk.co.jp/>

自然環境 三井住友信託銀行ESDプロジェクト

三井住友信託銀行



学校生徒へのESD(持続可能な開発のための教育)の一環で、生物多様性と生態系保全に取組む重要性を動画教材を活用して現役世代へ訴求しつつ、記録映像で次世代にも伝えるプロジェクト。平成24年より開始、延べ500名が参加。

<http://www.smtb.jp/csr/esd/>

自然環境 横浜ゴム(株)三重工場 生物多様性保全活動出前授業・植樹体験活動

横浜ゴム株式会社 三重工場



伊勢市と環境協定を結び、生物多様性保全活動の実績を基に、近隣小学校の児童を対象に環境教育出前授業を実施。また、市内の小中学校児童へ植樹体験を実施。

<http://www.y-yokohama.com/csr>

自然環境 岡山ワイナリーでのぶどうづくり体験学習

サッポロビール株式会社



ワイナリー内のぶどう畑の一部を近隣の赤磐市立軽部小学校に開放し、5月から9月までぶどう(マスカットベリーA種)の栽培から収穫までを一緒に行うだけでなく、地域の自然や農業・仕事についても学ぶ。

<http://www.sapporobeer.jp/company/maindata/index.html>

自然環境 「人と地球の健康を考える」 食育プロジェクト

不二製油グループ本社株式会社



大豆は、どこでも栽培でき、栄養価が高くエネルギー効率が良いことから、世界の食糧危機を救うといわれている。出前授業では、世界の食糧問題や大豆のチカラについて学びながら「身近な食」の大切さを考える。

<http://npoafterschool.org/shokuiku/>

自然環境 環境わごん

本田技研工業株式会社



「環境わごん」とは、環境教育とモノ作りを融合させた、小学生を対象とした教育プログラム。自然素材でモノ作りにチャレンジし、自然を守る大切さなどへの気づきをサポートする取組。

<http://www.honda.co.jp/philanthropy/wagon/>

自然環境 チャレンジ! 無人島探検隊inせとうち

森永製菓株式会社



未来を担う子供たちのすこやかな成長を応援するために、電気・ガス・水道のない無人島生活を体験する機会を小学生に提供する。仲間と協力し、思い切って自分の殻を破って挑戦する直接体験を通して、生きる上で大切な力を身に付けられるよう応援していく。

<http://www.morinaga.com/mujin/>

生活文化 「足育(そくいく)相談室」の出前講座

アキレス株式会社



「足育(そくいく)」とは、足の機能を育てるという意味を含めた言葉。社内に「足育相談室」を設置して、小学校等で出前講座を実施。児童・生徒、保護者・教職員に対して、靴の選び方を説明し、正しい靴の履き方や歩き方を練習してもらうことで、「足と靴の大切さ」を学ぶ機会としている。

<https://www.achilles-shoes.com/sokuiku/>

広がる企業の体験活動

生活文化 視覚障がい児向けブラインドサッカー練習会「ブラサカ・キッズトレーニング」

SMBC日興証券株式会社  SMBC日興証券
視覚障がい児の運動支援を目的としたサッカー教室。日本ブラインドサッカー協会とパートナー契約を締結、キッズトレーニングの運営スタッフとしてもボランティアを派遣。

<https://www.smbcnikko.co.jp/csr/index.html>

生活文化 ありがとうの手紙コンテスト2016

株式会社ファミリーマート  **あなたも、コンビニに、FamilyMart**
感謝の気持ちを素直に表すことができる大人になってもらいたいという思いから、全国の小学生を対象とした「ありがとうの手紙コンテスト」を平成21年より開催。感謝の気持ちを持つことや、その気持ちを文字や言葉として伝えることの大切さを学んでもらう。

http://www.family.co.jp/company/csr/children/thanks_letter/2017.html

生活文化 「小学校に洋式トイレプレゼント！」

小林製薬株式会社  **小林製薬**
公立小学校のトイレ環境の改善と正しい排便意識の啓発を図る社会貢献活動。和式トイレの洋式化、乾式床シートへの張替えなどのハード面と、排便の大切さやトイレ使い方を啓発する授業といったソフト面の両面で活動している。

<https://www.kobayashi.co.jp/toilet-present/index.html>

生活文化 日本新薬こども文学賞

日本新薬株式会社  **日本新薬株式会社**
「物語部門」と「絵画部門」で作品を募集し、物語部門の最優秀作品に絵画部門の最優秀賞受賞者が絵をつけた絵本を3万部作成。全国の医療機関や図書館等に配布するほか、読み聞かせなどの朗読会を実施している。

<http://kodomo-bungaku.jp/>

その他 次世代教育支援プログラム「科学技術と人の幸せ」

大日本住友製薬株式会社  **大日本住友製薬**
生命や倫理など、正解のないテーマに対して、他人の意見や自ら異なる考えを受け入れながら、自分だったらどう判断するかを考え、豊かな感性と優しさをもって自分なりの意見を導き出す「道徳的実践力」の育成を目指す。

<http://www.ds-pharma.co.jp/csr/community/employee.html>

生活文化 防災をテーマに、家族で学ぼう！「チャリティ 防災クッキング」

大阪ガス株式会社  **大阪ガス**
小学生と保護者を対象に、弊社制作『考える防災教室』を用いた学習と、乾物、缶詰、みそ玉などの保存食材を用いた料理体験講座を開催。親子184名が、もしもの時を賢くたくましく乗り切る知恵と工夫を体験した。

<http://www.osakagas.co.jp/shokuiku/news160904r.html>
<http://www.osakagas.co.jp/company/efforts/bousai/booklet/>

生活文化 「カンテレ出前授業」テレビ制作現場の体験を通して次世代に“リテラシーと生きる力”を育む

関西テレビ放送株式会社  **カンテレ**
次世代に“メディア・リテラシーの力”と“生きる力”を育むことが目的。関西テレビの社員が小、中、高、大学校へ出向き制作現場のノウハウや機材を駆使し、ワークショップ形式の体験型授業を展開している。

<https://www.ktv.jp/ktv/literacy/lecture/>

生活文化 「桃太郎トマトの学校」

タキイ種苗株式会社  **タキイ**
当社の代表ブランドである「桃太郎トマト」を題材とする、小学生向けの授業プログラム。トマトのおいしさや栄養素について学びながら、種苗会社ならではのタネの開発「育種」についても学ぶ。さらに、子供たちで調理をする「食育」も兼ねたプログラム。

<http://www.takii.co.jp/csr/tomato.html>

生活文化 「手紙の書き方体験授業」支援等のお手紙プロジェクト

日本郵便株式会社  **日本郵便**
全国の希望する幼稚園・保育所等に「お手紙ごっこ遊び」支援キットを、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等に「手紙の書き方体験授業」支援として「本物の郵便はがき・テキスト」などの教材を提供し、遊びや授業を通して手紙の良さを体験してもらおう。

<http://www.schoolpost.jp/>

職業仕事 いばらき介護体験キャンプ2016

茨城県福祉介護事業協同組合
水戸市とつくば市の小学4年生から中学3年生までの30名を対象に、2日間にわたり介護について学ぶキャンプを行う。お年寄りと交流する中で、お年寄りが喜ぶレクリエーションを考え、翌日のレクリエーションを実施。

<http://www.ibaraki-fukushi.jp/info/search.cgi?no=064&mode=detail&url=page%3D>

職業仕事 小・中学校での講演および野球教室“夢を叶えるために必要なこと”

株式会社石川ミリオンスターズ  **石川ミリオンスターズ**
石川ミリオンスターズの選手が子供たちに夢を叶えるために今やるべきことなどを伝え、これからの学校生活に活かしてもらうことを目的に実施。間近でプロ野球選手の姿を観てもらうことにより、夢や目標を持つことに繋げている。

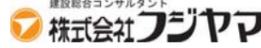
<http://www.m-stars.jp/>

科学技術 「IWATE ILC 2030 ILCクラブ」

株式会社岩手日報社  **岩手日報社**
岩手県の北上山地が建設候補地の超大型加速器・国際リニアコライダー(ILC)について、完成後に活躍する年代の地元中学生とともに学習し、日本誘致後の未来像を描く。

<http://www.iwate-np.co.jp/>

自然環境 「ホテルも棲める良い自然プロジェクト」

株式会社フジヤマ  **株式会社フジヤマ**
昆虫や植物の観察会を通して子供たちに環境保全や生物多様性の重要性について啓発するとともに、公園等の水路を利用して県の準絶滅危惧種となっているヘイケボタルの再生に取り組んでいる。

<http://www.con-fujiyama.com/contributions/environment/hamahotaru/>

自然環境 ネット群馬 グリーンツーリズムキャンペーン

ネットトヨタ群馬株式会社  **ネットトヨタ群馬株式会社**
故郷「群馬」の自然の素晴らしさを知り、植樹や昆虫観察を体験することで郷土愛を育むこと、環境保全への意識を高めることを目的に実施。参加者や協力団体と交流することで、友好の輪を広げ、地域に貢献する。

<http://www.netzgunma.co.jp/>

生活文化 ゴールボール体験授業

フコクしんらい生命保険株式会社  **フコクしんらい**
視覚障がい者スポーツであるゴールボールの体験授業を新宿区内の学校で開催。子供たちが、授業を通じ、障がい者の理解を深めたり、コミュニケーションの大切さを学んだり、様々な気づきを得て成長の糧にすることを期待。また、共生社会づくりに寄与したい。

<https://www.fukokushinrai.co.jp/>

職業仕事 「道場やぶり おしごとチャレンジ ファッション大作戦！」

株式会社東京ソワール  **株式会社東京ソワール**
洋服のできるまでの過程を勉強した後、ブランドの企画、Yシャツリメイクのデザインを考え、ミシンで縫ったり、釦やビーズで装飾し作品を完成させる。そして、自身で着てファッションショーで発表する。

<http://www.soir.co.jp/company/csr/index.php>

自然環境 「大協くん」はきょうも行く！子供たちの明日と笑顔のために

株式会社大協組  **株式会社大協組**
道をつくる、街をつくる、未来をつくる。 **DAIKYO co.,Ltd.**
地域の親子や子供を対象に、海岸清掃、お仕事探検ツアー、動物とのふれあい等の活動を行っている。「大協くん」という当社のCSRキャラクターとともに、体験活動を通して環境問題への理解を深めてもらう。

<http://daikyo-eco.jp/index2.php>

自然環境 地域連携、自然体験活動

奈良造園土木株式会社
新横浜町内会を中心に地元の子供たち、保護者と田植え体験から収穫、餅つき大会を通して食育を行う。また、都会の中でも自然を感じて植物や生きものと触れ合う機会を作る。

<http://www.narazouen.co.jp/>

生活文化 「フォーマルドレスの端切れを使ってコサージュを作ろう！」

株式会社東京ソワール  **株式会社東京ソワール**
ドレスを作成する過程で出る端切れを利用してオリジナルのコサージュを作る。花弁型に切った生地を好みで組み合わせ接着剤や糸で留めビーズで装飾し完成。ものを大切に作る心と作る楽しさを伝えるプログラムを提供している。

<http://www.soir.co.jp/company/csr/index.php>

生活文化 水戸ヤクルト出前授業「おなか元気教室」

水戸ヤクルト販売株式会社  **水戸ヤクルト販売株式会社**
主に小学校を中心に「早ね・早おき・朝ごはん+朝のうんち」を、腸管模型やうんち模型など楽しい資材も用いて親子で生活リズムの大切さを学ぶ出前授業。子供から大人まで対象者に合わせたプログラムを実施している。

<http://www.mito-yakult.co.jp>

なぜ青少年に体験活動が必要なのか。 「社会を生き抜く力」となるから。



体験活動の必要性の高まり

少子・高齢化やグローバル化、情報通信技術の進展、経済活動や雇用活動の急激な変容など、今を生きる子供たちはめまぐるしく変化する時代の中にいる。

このような時代を生き抜くためには、コミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、創造力、変化に対応する力、異なる他者と協働する力などが求められ、子供たちがこれからの「社会を生き抜く力」を身に付けていくには、多様な人々との関わることや多様な経験を積み重ねていくことが必要である。

平成29年6月に発表された教育再生実行会議の「第十次提言」でも、自然体験活動や集団宿泊体験、職場体験活動、奉仕体験活動、文化芸術体験活動といった様々な体験活動を通じて、達成感や成功体験等を得るとともに、失敗や挫折を経験したときに、自分を受け入れ、課題に立ち向かう姿勢を身に付け、さらに自己肯定感を育むことにつながる点を指摘しているところである。

家庭、学校、地域が連携・協力した体験活動を

未来ある子供たちにとって体験活動は、大変重要なものとなっているが、近年の都市化、少子化、電子メディアの普及等により、青少年の体験活動の場や機会が少なくなっているとも指摘されている。また、保護者自身の体験の多寡や経済力、地域の情報力、学校の判断等が子供の体験活動の機会に影響を及ぼしているとも言われており、このような状況を踏まえ家庭、学校、地域が連携・協力して、子供に体験活動の場を提供することが必要となっている。

今後の青少年の体験活動に向けて

「青少年の体験活動推進企業表彰」は中央教育審議会答申『今後の青少年の体験活動の推進について』（平成25年1月21日）を受けて始まった。今回で5回目を迎え、応募内容も年々充実してきており、企業の青少年の体験活動への理解が確実に深まっており、今後の取組が一層期待される。

子供にとって、多様な経験を積み重ねることは、これからの社会を生きる上で大変重要なものである。同時に、青少年の体験活動に関わる企業、活動の場となる地域にとっても有益なものである。それは、企業にとっては社会的な信頼を増やし、地域にとっては、地域の良さを再発見する機会ともなる。

今後、青少年の体験活動を更に広げ、充実していくためには、国や地方公共団体等と企業・団体との連携を強め、積極的に働きかけることが重要である。

本冊子では、応募のあった74事業の取組を掲載している。活動の内容や企業と地方公共団体、地域との連携など、これからの取組の参考となれば幸いである。



企業の力で 青少年に多様な体験活動の機会を

青少年の体験活動推進企業表彰

【平成29年度 表彰概要】

表彰の目的

社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた実践を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図る。

表彰の対象

企業が社会貢献活動の一環として主催し、参加する青少年を公募して実施したもの。平成29年度表彰は平成28年4月1日～平成29年3月31日に実施された体験活動を対象にした。

表彰の内容

全国より74事業の応募があり、文部科学大臣賞が2件（大企業部門1件、中小企業部門1件）、審査委員特別賞が6件（大企業部門4件、中小企業部門2件）、審査委員奨励賞が15件（大企業部門12件、中小企業部門3件）、選ばれた。

これまでの文部科学大臣賞 受賞企業	
年度	概要
平成25年度 (表彰開始)	株式会社リコー「市村自然塾」 小学4年生から中学2年生が9か月間、隔週末に2泊3日の共同生活をして、農作業や星座観察などに取組む。参加者は共に汗を流し、考え、ルールを守る体験を通じ、自ら成長する。異年齢の青少年の長期にわたって体験を提供する点などが評価された。
平成26年度	アサヒビール株式会社「日本の環境を守る若武者育成塾」 高校生チームが夏合宿の体験で得た学びを踏まえ、地域の課題解決のためのアクションプラン立案・実践、成果発表に至る半年間のプログラム。主体的、協働的に学ぶ「アクティブラーニング」であることで、地元で継続される点などが評価された。
平成27年度 (大企業部門と 中小企業部門 に分けて表彰)	大企業部門：パナソニック株式会社「映像政策支援プログラム キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)」 子供自身の目線で物事をとらえ発信していく活動。映像制作を通じて表現力やコミュニケーション能力を高めることを目的とし「考える力」「まとめる力」「伝える力」「チームワーク力」を養っている点などが評価された。 中小企業部門：株式会社金沢大地「コープ農園 大豆・味噌づくりコース」 オーガニック大豆の種まきから収穫するまでの農作業と、自分たちが育てた大豆を活かした石川県産原材料100%の味噌づくりの加工まで、一連の流れを継続して体験することにより、地元の食や旬、生物の多様性、有機農業を身近に感じる学びの場を創出している点などが評価された。
平成28年度	大企業部門：ぺんてる株式会社・キャノンマーケティングジャパン株式会社「校舎の思い出プロジェクト」を2社共同で実施 建て替えや統合により取り壊される小学校を対象に、校舎での最後の思い出づくりをサポートする活動。「画材」はぺんてる、「カメラ」はキャノンの主力商品を活かした体験活動を2社共同で行っているという点が評価された。 中小企業部門：ワイズティーネットワーク株式会社「宇都宮市立中央小学校の紅茶部をサポート」 地域の小学校に、紅茶についての講演や出前事業等で訪問する活動。本業を活かして、地域の子供たちへ「郷土愛」と「おもてなしの心」を伝える取組を地域密着で行っている点が評価された。

文部科学省のホームページに、これまでの詳細の情報が掲載されています。ぜひご覧ください。

青少年の体験活動推進

検索

http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/taiken.htm